

幼児教育系学生の読書像¹⁾

青 嶋 由美子

1. はじめに

21世紀を迎えて9年目も過ぎた今、青少年の「活字離れ」といった現象を論じることが無意味な時代に既に入っていると言えよう。「活字」という語を、印刷物としての書物を指す言葉として考えるのであれば、多くの若者にとって「活字」は縁遠いものとなっているのが現実である。携帯小説の興隆や電子書籍の一般化が予想されるという現象がそれを裏付けている。

時代的背景として、印刷物を媒介としない読書形態が、早いペースで受け入れられるようになってきていることが挙げられる。

パソコンや携帯電話を用いて、Web上に掲載されている小説を読む形態が、その手軽さ故に増加している。そして、そこでヒットした作品が安直に書籍化される傾向が強まっている。また、同様にWeb上で読みたい本を購入し、PC画面でそれを読むというタイプの読書方法も浸透してきている。こちらは、絶版となってしまった本をオン・デマンドによって読めるという点では評価出来る。しかし、流通中の書籍をわざわざ書店に足を運ばずとも読めるとい

う手軽さによって受け入れられているというのも事実である。

また、今後印刷物としての書籍流通量が低下する要因になるのではと予想されるのが電子書籍である。日本では再販制度による本の定価販売に代表されるハードルがあるため、現在のところ、さほど普及していない。しかし、2008年には世界で百万台だった書籍閲覧可能な携帯端末の販売台数は、今後数年の内に二千二百万台に達すると予想されている。アマゾンの「キンドル」・ソニーの「リーダー」が現在のところ市場の大半を占めているが、アップル社が「アイパッド」を発表し電子書籍市場への参入姿勢を示した。ツールとしての電子書籍は、軽く・薄く・画面は大きくといった特徴が前面に押し出されており、特にアメリカ合衆国で売り上げを伸ばしている。また、今までの出版物の電子化も拍車がかけられている。

若年層の「活字離れ」を食い止めるために取り入れられた小学校・中学校での朝の読書タイムという体験を経ている、読書の習慣が身に付いてはいない。勿論、読書タイムを通して、書物を通しての経験を積

1) 本稿は、2007年5月に行われた第60回日本保育学会で発表した内容に加筆したものである。共同発表者であった大森隆子氏（相山女学園大学教授）には、データ収集の点でご尽力いただいた。

む児童・生徒も居るであろう。しかし、多くの者は、形式だけの読書でその時間をやり過ごしているのではないだろうか。子ども達は忙しく毎日を送っている。学校・部活動・塾・習い事などで日々の時間は経過していき、家庭で書物を紐解く余裕など無いのではないか。

現代では、若者が腰を据えて、「本」という媒体を通しての読書体験を積んでいくことは珍しいと言えるのではないだろうか。「本」という媒体に接するとしても、それは、所謂書籍化された「携帯小説」、不治の病・いじめ・虐待・レイプ・恋人の死といった不幸がてんこ盛りとなったものが対象となっているように思われる。筆者が所属する短期大学で、新入生に「友達に薦めたい本」のプレゼンテーションを行ってもらった際、「携帯小説」を選ぶ者が非常に多いのである。

しかし、青少年の活字離れの状況は何も今に始まったものではない。筆者は、1990年、青少年の活字離れの現状を把握しようと学生の読書体験について調査を行った。その時の調査は、児童文学作品に限定して行なわれた。児童文学作品は、絵本と、通常の一般文学作品の中間に位置するものであり、幼い頃の絵本の読み聞かせ体験と、成人してからの読書習慣を繋ぐ架け橋の役割を果たすものである。将来、保育に携わる者にとって、絵本と文学の中間に位置する児童文学を熟知することは必要不可欠な体験であると考え、どの程度の読書を行ってきたのかをアンケート調査したのである。結果としては、児童文学に十分に触れていない学生の数は、その当時でさえ我々の予想以上となっていた。今回、18年という時を経て、学生の読書傾向の変化を追う

べく、再び調査を実施した。本稿は、その結果と考察を纏めたものである。

2. 調査の方法

調査の実施方法については、18年前に得られた結果との比較を行いやすくするため、当時とほぼ同じ形で実施した。

①調査形態 無記名によるアンケート調査
アンケート用紙を学生に配布し、各自記入してもらう形式を取った。

②調査時期
S女学園大学 2007年12月5日
T S大学短期大学部 2007年12月21・24日
調査対象校は二校であるが、共に12月に実施した。

③調査対象者数
S女学園大学 1年生108人
T S大学短期大学部 1年生112人
調査対象者の年齢を揃えるために、両校とも1年次在籍者を対象として実施した。

④調査内容 児童文学作品72タイトルに対して、どのような媒体を通してその作品を知っているかを選択肢から選ぶ形態で調査を行った。72のタイトルについては、1990年初夏、「岩波少年文庫・私の一冊50選フェア」にてリスト・アップされた作品のうち、民話・神話・伝記等を除き、テレビアニメとして放送されたもの、映画化・ドラマ化されたものを含めて前回調査対象作品とした71タイトルに、近年映画化された『指輪物語』を加えたものとなっている。選択肢としては、活字中心の本（岩波少年文庫を最低の基準とする）・絵本・ビデオ又はDVD・テレビ放送・映画（映画館で見たものに限る・わざわざ足を運んだという気持ちを、テ

レビ放送と区別するため）・その他の六つを挙げておいた。また、文学の礎である神話についても、日本神話・ギリシア神話・その他の神話という分類で知っている話や題名を自由記述してもらう形式とした。

3. 調査結果と考察

調査結果一覧については本稿末に載せる。ここでは特徴を通しての結果と考察を記していく。

①学生がよく知っている児童文学作品

八割以上の学生が知っていると回答した作品名は、表に示した通りである。表中の①～⑥はその児童文学作品を知った媒体を示している。①は「活字中心の本（絵本と区別するために、イラストの挿入基準を岩波少年文庫とする）」、②は「絵本」、③は「DVD・ビデオで視聴したもの」、④は「TV放映で視聴したもの」、⑤は「映画館で見たもの」、⑥は「その他」を示している。また、①から⑥の数値は、「知っている」と回答した学生数を分母として出したものである。

S 女学園大学

作品名	認知率(%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑥の備考
ハイジ	98.1	4.6	12	34.3	84	0.9	0.9	
ピーター・パン	98.1	1.9	7.4	80.6	16.9	19.8	0	
ふしぎの国のアリス	98.1	17.6	51.9	72.7	11.3	8.5	1.9	
魔法の宅急便	98.1	9.3	13	64.2	34	24.5	0.9	
くまのプーさん	97.2	2.9	57.4	77.1	25.7	10.5	5.7	TDL等
フランダーズの犬	94.4	13.9	24.1	43.1	61.8	6.9	0	
西遊記	93.5	16.7	19.4	20.8	73.3	18.8	3.9	漫画
グリム童話	89.8	32	72.2	26.8	9.3	4.1	1	
ピノッキオの冒険	88.9	11.1	45.4	84.4	10.4	12.5	0	
イソップ寓話	88	30.6	72.2	13.7	5.3	0	1	

T 大学短期大学部

作品名	認知率(%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑥の備考
ピーター・パン	100	0.9	100	59.8	4.5	0	0.9	人形劇
くまのプーさん	96.4	3.6	27.7	47.2	20.4	0	0	
西遊記	92	0.9	10.7	3.9	77.7	5	0	
魔法の宅急便	92	0.9	0	45.6	45.6	8	0	
ハイジ	91.1	0.9	0.9	7.8	90.2	0	0	
アンデルセン童話	91.1	1.8	80.4	1.8	3.6	0.9	0	
ふしぎの国のアリス	90.2	1.8	17.9	61.4	7.8	0	5	人形劇等
グリム童話	88.4	7.1	68.6	10.1	4.2	0	0	
イソップ寓話	87.5	3.6	72.3	4.1	3.1	0	6.7	素話
フランダーズの犬	86.6	2.7	8	17.5	70.1	0	0	
ピノッキオの冒険	85.7	0.9	22.3	68.8	2.1	0	0	
新美南吉の童話	84.8	20.5	35.7	10.7	4.2	1.8	10.7	教科書等
宮沢賢治の童話	82.1	33.6	11.6	4.2	3.3	0	33.7	教科書等

調査対象学生の所属に関係なく、新美南吉・宮沢賢治の童話を除くと、共通するタイトルばかりとなっている。さらに、グリム童話・イソップ寓話を除くと、ディズニーが映画化したものか、テレビでドラマやアニメとして放映されたものばかりである。グリム童話に収録されている「シンデレラ（灰かぶり）」や「白雪姫」に関して言えば、これらもディズニーによって映画化されている。この二十年という間に、ビデオは安価になり、DVDも普及し、レンタルショップも数多く手軽に利用出来るようになった。また、ヒットした映画は、比較的早い段階からテレビ放映される機会も多い。このような社会状況から、視聴覚系の児童文化財を通して児童文学作品に触れるケースが多くなっている。

②映画化された児童文学作品

1990年当時の調査との違いは、『魔女の宅急便』『ゲド戦記（映画公開は2006年7月・監督は宮崎吾郎）』の台頭である。これは、スタジオ・ジブリによってこの作品が映画化され、それが長い年月にわたって、人気を集めてきたことによるものと推測される。また、映画化され大きな話題となっ

た『指輪物語（*The Lord of the Rings*）（日本での映画公開は第1部 *The Fellowship of the Ring* が2002年3月、第2部 *The Two Towers* が2003年2月、第3部 *The Return of the King* が2004年2月）』『ナルニア国物語』も大きく認知度を上げている。ここでは、ここ10年の間に公開された作品の調査結果を示しておく。

前回の調査では、『魔女の宅急便』については映画13.1%、ビデオ20.9%という結果、『ゲド戦記』については、知っていると回答した者は僅か0.4%であった。「ナルニア国物語」についても前回知っているとした回答は1.2%であった。しかし、予想された通り、認知率は高くとも、活字媒体を通しての経験値は、非常に低いと言わざるをえない。

ここでは特に、「ナルニア国物語（*The Chronicles of Narnia*）」²⁾を取り上げてみたい。オックスフォード、ケンブリッジの両大学で英文学の教鞭をとったルイス（C. S. Lewis, 1898～1963）が著した全七巻の物語は、2555年に亘るナルニア国の興亡を記した大作である。ナルニア国の王であるライオンのアスランはイエス・キリストを象徴しており、寓意に満ちた秀逸なファンタジ

S 女学園大学

作品名	認知率(%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑥の備考
ゲド戦記	49.1	3.7	0.9	37.7	3.8	64.2	1.9	
ナルニア国物語	62	14.8	0.9	25.4	0	73.4	2.9	
指輪物語	52.8	1.9	3.7	21.1	10.5	77.2	0	

T S 大学短期大学部

作品名	認知率(%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑥の備考
ゲド戦記	44.6	0.9	0.9	18	2	76	0	
ナルニア国物語	44.8	2.7	0.9	22.4	8.2	61.2	0	
指輪物語	35.7	0.9	0.9	33.3	12.8	48.7	0	

一とされている。第一作『ライオンと魔女 (The Lion, the Witch and the Wardrobe, 1950; The Chronicles of Narnia II)』, 順に『カスピアン王子のつのおえ (Prince Caspian, 1951; The Chronicles of Narnia IV)』『朝びらき丸, 東の海へ (The Voyage of the Dawn Treader, 1952; The Chronicles of Narnia V)』『銀のいす (The Silver Chair, 1953; The Chronicles of Narnia VI)』『馬と少年 (The Horse and his Boy, 1954; The Chronicles of Narnia III)』『魔術師のおい (The Magician's Nephew, 1955; The Chronicles of Narnia I)』, そして『さいごの戦い (The Last Battle, 1956; The Chronicles of Narnia VII)』で幕を閉じる。

映画化されたものは、現在のところ『ライオンと魔女』『カスピアン王子のつのおえ』の二作品であるが、調査当時は『ライオンと魔女』のみであった。この映画の日本での興行は2006年3月4日に開始され、興行成績はこの年度上半期の第三位で69億円となっている（ちなみに第一位は、『ハリリー・ポッターと炎のゴブレット』で110億円、第二位は『ダ・ヴィンチ・コード』で90億円である）。

映画となった『ライオンと魔女』で描かれているのは、「そのとき、ナルニア暦1000年、扉の向こうで運命の戦いが始まる。」というキャッチ・コピーに提示され

た善と悪との戦いであった。白い魔女が支配する氷と雪の世界。創造主アスランや予言に謳われた運命の四人の子ども達、ビーバー、フォーン、ケンタウロス（セントール）等、善の側が属するのは光と緑の世界。コンピューター・グラフィクスと特殊メイクで描き出されたウォルト・ディズニー・ピクチャーズのナルニア王国は、素晴らしい魅力に満ちた映像だった。原作の持ち味を損なうことなく、物語そのものを楽しみ、また、ファンタジーが内包する希望や夢、信頼、愛を充分に感じ取られる作品として仕上がっている。日本公開に際しての吹き替えは、「白い魔女」を大地真央が、「アスラン」を津嘉山正種が担当しており、吹き替え版で見ても声を通しての迫力を味わえるように作られていた。幼児から大人までが堪能出来る映画となった『ライオンと魔女』を通して、初めて「ナルニア国物語」に接した人が多いことは想像に難くない。今回の調査対象である学生達も同様であろう。

この『魔女の宅急便』『ナルニア国物語』『ゲド戦記』『指輪物語』等の映画化された作品が人口に膾炙していることを含め、注目すべき点としては、児童文学作品を認知した媒体が、活字中心の本以外のものへと大きく移行していることが挙げられる。今後、スタジオ・ジブリがメアリー・ノート

2) C.S.Lewisが著した「ナルニア国物語」は発刊年とナルニア国の興亡の歴史が一致していないために、若干の読み難さを与えるようである。

ナルニア国が勃興したのは、6作目として発表された『魔術師のおい』で描かれている。ディゴリー少年とタウンハウスの隣の家に住んでいる少女ポリーは、魔法の指輪のおかげで、異世界と行き来出来るようになる。二人は、とある滅びた王国よりロンドンへと連れ戻った魔法使いの女王が多くのトラブルを引き起こすため、また別世界へ連れて行った。その別世界こそがライオンが大地を整えていた国であった。ライオンは深々とした低音の美しい歌を歌い、その声に、ずっと高く、冷たい、銀の鈴が鳴るような声がかわった後、闇の中に星々が出現し、太陽が昇ってきた。川が生まれ、山が出来、谷間が広がり、青々とした草があたりに覆っていった。ライオンが選んだ動物と自然の精は喋るようになり、ナルニア国が生まれた。ディゴリーとポリーは、まさに、この国の誕生の瞬間に立ち会ったのである。

映画化された『ライオンと魔女』は、ナルニア国の誕生から数世紀のち、白い魔女（『魔術師のおい』に登場した魔法使いの女王）が支配するナルニアへ、四人の子ども達が衣裳箆筒を通して入り込む物語である。白い魔女に代表される悪とアスランに代表される善の壮大な闘いが描かれている。

ン (Mary Norton, 1903-1992) による『床下の小人たち (The Borrowers)』(1952) (映画化された際のタイトルは『借りぐらしのアリエッティ』企画・宮崎駿, 監督・米林宏昌) の映画化を進めていることから, 今回の調査では, この作品の認知率が大幅にアップすることが予想される。

③認知度の差

今回の調査結果からは, 所属する養成機関が四年制大学であるか短期大学であるかによって, 学生が活字を中心とした媒体と関わりを持ってきたかどうかという点に大きな差が生じている点も見逃せない。殆どの児童文学作品において, 四年制大学に在学する学生の方が, 活字を中心とした媒体でその作品に接している数値が高い。また, 認知率について, 20%以上の隔たりがあったものについては, ☆印をつけた「新美南吉の童話」を除いて, 6作品が四年制大学の対象者の方が高くなっている。このような点から, 四年制大学に進学する学生の方が, 読書体験を積んでいる場合が多いと推測される。

二つの群で20%以上の差があった作品

家なき子
ガリヴァー旅行記
奇岩城 (ルパン・シリーズ)
ドリトル先生アフリカ行き
☆新美南吉の童話
星の王子様
モモ

④学生が全く知らない児童文学作品

前回の調査では, 活字・絵本という媒体を全く介していない作品は, ジョーン・ロビンソン (Joan Gale Robinson, 1910-1988)

の『思い出のマーニー (When Marnie Was There)』(1967), チャールズ・キングスレイ (Charles Kingsley, 1819-1875) の『水の子 (The Water Babies)』(1863) 僅か2作品であった。しかし, 今回実施した調査では, S女学園大学では10タイトル, TS大学短期大学部では, 20タイトルにも上っている。

S女学園大学

タイトル
思い出のマーニー
銀のスケート
楽しい川べ
フランバーズ屋敷の人々
プラテローと僕
星のひとみ
水の子
ムギと王さま
名探偵カッレくん
やかまし村の子どもたち

TS大学短期大学部

タイトル
石の花
イワンのばか
オタバリの少年探偵たち
思い出のマーニー
銀のスケート
クオレ
せむしの小馬
楽しい川べ
ツバメ号とアマゾン号
長い長いお医者さんの話
フランバーズ屋敷の人々
プラテローと僕
星のひとみ
ホビットの冒険
やかまし村の子どもたち
床下の小人たち
リンゴ畑のマーティン・ビピン

両調査対象校に共通するタイトルは, 『思い出のマーニー』, オランダを舞台にし

たドッジ夫人（Mary Mapes Dodge, 1831–1905）の名作『銀のスケート（*Hans Brinker or the Silver Skates*）』（1865）、小動物の川岸での生活を描いたケネス・グレアム（Kenneth Grahame, 1859–1932）の『楽しい川べ（*The Wind in the Willows*）』（1908）、ヤングアダルト界随一の大河ドラマと呼ばれるK. M. ペイトン（K. M. Peyton, 本名：Kathleen Wendy Peyton, 1929–）の「*フランバード屋敷の人々（Flambards）*」シリーズ（『愛の旅だち（*Flambards*）』（1967）『雲のはて（*The Edge of the Cloud*）』（1969）『めぐりくる夏（*Flambards in Summer*）』（1969）『愛ふたたび（*Flambards Divided*）』（1981）の四部作）、愛するロバとの日々を描いたヒメーネス（Juan Ramón Jiménez, 1881–1958）の散文詩『プラテロと僕（*Plater y yo “Platero and I”*）』（1917）、「フィンランドのアンデルセン」と呼ばれるトペリウス（Zacharias Topelius, 1818–1898）の童話集『星のひとみ』、メルヘン童話の代表作であるキングスレイの『水の子』、スウェーデンの農村を舞台としたアストリッド・リンドグレン（Astrid Lindgren, 1907–2002）による「やかまし村の子どもたち（*Alla vi barn i Bullerbyn*）」シリーズの8作品である。

学生達が知らない（読まない）児童文学作品とは、もう時代遅れの存在であり、興味を引かないのだろうか。本稿では『銀のスケート』について考えてみたい。

『銀のスケート』は、風車とチューリップ、そして木靴の国オランダを舞台としている。貧しい農家の兄妹ハンスとグレテルが主人公であり、金持ちの娘で心の優しいヒルダが二人を助ける援助者として登場する。怪我をして記憶を失い、時として大暴

れする父親とその夫を介護して貧しい家を切り盛りする母親と兄妹の疲弊し切り詰めた生活が続く。しかし、父親を治療してくれる善意の医師ブックマン博士の登場により、父は以前の生活を送れるようになる。消えた金貨、謎の金時計という要素がミステリーの風合いを物語に添える。やがて記憶喪失の前に手に入れていた金貨を取り戻し、一家は普通の生活に戻ることが出来た。ヒルダの心遣いによってスケート靴を手に入れたグレテルは、町の子どもの達のスケート大会で優勝し、銀のスケート靴を手に入れるのである。

この物語のテーマは「不幸せで貧しい境遇に生きる子ども達が、愛情に恵まれ、立派な正しい生き方をする」という点に在る。勇敢で正しい行いをするハンスと賢くて優しいグレテル。現代の学生には、このようなテーマは受け入れ難いかもしれない。ご都合主義の展開や有り余る善意に満ちた登場人物は、たとえ物語の中であっても認められないのであろう。善行を積むこと、一生懸命に物事に取り組むこと、分相応な生き方を求めること、道徳観やモラルを大切に生きるこのような姿は、現代では「格好悪い」と断じられてしまうのである。今やファンタジーでさえ暗く、幸せな結末の無い物語が描かれる時代である。明るく幸せな側面ばかりが強調される物語に、魅力は感じられないのかもしれない。

読まれたことのない作品が全て『銀のスケート』と同種の物語ではない。しかし、今を生きる子ども達の心を掴めるものではなくっているのは事実であろう。そして調査結果は、現代の学生と児童文学作品との関わりが希薄になっていることを顕著に示しているのである。

⑤神話について

世界各地にそれぞれの民族の神話が存在する。民族にとっての神話は、その国家の文学史の最初に登場するジャンルであろう。まさに、文学の根幹を形作るものと言える。

しかし日本では、第二次世界大戦後、『古事記』に取り込まれた日本神話を是としない風潮が存在していた。そのため、幼児の目に触れ易いところに日本神話を題材とした絵本が見当たらないという状況が長く続いてきた。ここ十年程の間に、美しい挿絵の添えられた絵本が出版され、日本神話に親しめる環境が生まれてきたことは喜ばしいと言える。

今回の調査では、文学の礎とも捉えられる神話をどの程度知っているかということも学生達に回答してもらっている。回答を得られたのはと日本神話・ギリシア神話であり、その他の神話については記述が見当たらなかった。

まず日本神話であるが、S女学園大学の学生達が知っているものとしてタイトルを挙げたのは、「因幡の白兔」「やまたのオロチ」「天の岩戸」である。また、天照大神という名も回答された。これ等は、『古事記』上巻に含まれている内容である。さらに、『古事記』中巻に登場する日本武尊の名も挙げられていた。TS大学短期大学部の学生達は、S女学園大学の学生と同様に「因幡の白兔」「やまたのオロチ」「天の岩戸」、加えて「海幸彦山幸彦」も挙げている。共に、非常に有名な話については知識があるという結果を得た。しかし『御伽草子』に含まれる「一寸法師」や昔話に分類される「桃太郎」「浦島太郎」「猿蟹合戦」「かさ地蔵」を挙げたり、『竹取物語』を挙

げたりした者も居た。

ギリシア神話に関しては、S女学園大学の学生達は「トロイ戦争」「ヘラクレス」「トロイの木馬」「ヒアシンス」「アキレス」「オリオン」等を挙げている。ギリシア悲劇の主人公エレクトラの名も混じっていた。TS大学短期大学部の学生は「トロイの木馬」「トロイ戦争」「ゼウスの物語」「パンドラの箱」「イカロスの翼」「メデューサ」「ヘラクレス」「ペルセポネ」等を挙げ、こちらにもギリシア悲劇に登場する「オイディプス王」の名があった。

また、勘違いして記憶したのではないかと思われるのだが、旧約聖書の中のエピソードである「アダムとイブ」「ノアの箱舟」をギリシア神話と混同している学生がままいる。また太宰治の『走れメロス』を挙げた学生が両校に居た。

ギリシア神話についても、代表的な物語については認知している者が多いと判断される。

4. まとめとして

保育系学生であるかどうかに関わらず、若者の読書傾向には、大きな変化が現れている。冒頭でも述べたが、現代では、印刷物に在る活字という媒介を通さず、本に接する層が増加している。また、話題となった本は、比較的早い時期に映像化され、読まずに見て済ませるといふ楽しみ方も一般的である。

今回の調査では、映像メディアによって、児童文学に触れる機会が増えているという点が非常に顕著であった。前回の調査では殆ど知られていない作品が、映像を通して知られるようになるという事象を、数値としてははっきり捉えることが出来た。児童文

学への入り方として映像メディアを利用することは、現代の学生達にとって有効な方法となっていくのであろう。課題は、見たあとで「読む」態勢に如何に繋げていくかということである。一冊でも多くの作品を実際に読み、映像では伝えきれない言葉で紡がれた美しさや物語の背後に在るものを感じる力を育てる必要がある。言葉に支えられて物語を受け止めることが出来れば、幼児教育や保育の現場で、言葉の持つ威力を十分に発揮出来るようになっていく。

幼児教育や保育に関わる学生には、子ども達に言葉を使う楽しさを教える力が要求される。子ども達が、絵本から児童文学作品へ、そしてその先にある文学の世界へと繋がっていく物語の道を辿っていくときには、文字が伝えるものの偉大さを理解しているかどうか成否を分けるのではないだろうか。その道へ、子どもを導き、子どもの背を押して前へ進めてあげられる先生であるためには、自らが物語の世界の味わい方を熟知していなければならない。そのためにも、幼児教育や保育の現場を目指す学生達には、一冊でも多くの書物を読んでもらいたい。そして、絵本から児童文学への橋渡しをすべき時期にある就学前期の子も達に十分な読書経験をもたらせる先生となって欲しい。

このような時代にあって、活字が伝える力を理解し、物語を読んで想像し（*imagine*）共感し、さらに創造する（*create*）力を持つ保育系学生の育成が今後のさらなる課題となっていくのではないだろうか。

また、非常に基本的な点であるが、活字を通しての読書は、学生の国語力を大きく伸ばしていく。学生が様々な児童文学作品

と緊密な繋がりを持つことが出来るような教科内容の熟考が、我々が所属する養成校の課題として今後認識されることを切に願ってやまない。

参考文献

内山賢次 編

『少年少女世界の名作文学第15巻 アメリカ編6』
小学館、1966年出版。

収録作品：『赤毛のアン』『動物記』『オー＝ヘンリー短編集』『銀のスケートぐつ』

坪田譲治 編

『名作の研究事典』小峰書店、1984年出版。

ルイス、C.S.（瀬田貞二 訳）

『ライオンと魔女』岩波書店（岩波少年文庫）。
1985年初版、1999年第32刷。

『カスピアン王子のつるぶえ』岩波書店（岩波少年文庫）。
1985年初版、1999年第29刷。

『朝びらき丸 東の海へ』岩波書店（岩波少年文庫）。
1985年初版、1999年第28刷。

『銀のいす』岩波書店（岩波少年文庫）。
1985年初版、1999年第31刷。

『馬と少年』岩波書店（岩波少年文庫）。
1986年初版、2000年新版第1刷。

『魔術師のおい』岩波書店（岩波少年文庫）。
1986年初版、2000年新版第1刷。

『さいごの戦い』岩波書店（岩波少年文庫）。
1986年初版、2000年新版第1刷。

石津文子 編

『ナルニア国物語第1章ライオンと魔女』
（映画パンフレット）松竹株式会社、2006年発行。

	作品名	認知率		活 字			絵 本		
		T短大	S女学園	前調査	T短大	S女学園	前調査	T短大	S女学園
1	青い鳥	50.9	51.6	13.5	6.3	9.3	48.8	30.6	32.4
2	赤毛のアン	72.3	75	34	17	39.8	23	25.9	24
3	あしながおじさん	33	51.6	27	13.4	48.1	13.5	15.2	22.2
4	あそこはフリードリヒがいた	0.9	12	2	—	8.3	—	0.9	—
5	アラビアン・ナイト	75.9	62	10.7	—	13	24.6	17.8	26.6
6	アンデルセン童話	91.1	75	30.7	1.8	21.3	64.3	80.4	64.8
7	家なき子	13.4	63.9	18.9	3.6	2.8	18.4	1.8	3.7
8	家なき娘	17.9	13	1.6	—	—	4.9	—	—
9	石の花	—	0.9	1.6	—	0.9	0.8	—	0.9
10	イソップ寓話	87.5	88	29.5	3.6	30.6	63.1	72.3	72.2
11	イワンのばか	—	10.2	13.9	—	2.8	11.9	—	5.6
12	エミールと探偵たち	2.7	7.4	2.9	2.7	6.4	0.8	—	—
13	小川未明の童話	0.9	2.8	1.6	—	2.8	0.4	0.9	—
14	オタバリの少年探偵たち	—	2.8	0.4	—	—	—	—	—
15	思い出のマニー	—	—	—	—	—	—	—	—
16	風に乗ってきたメアリー・ポピンズ	20	28.7	8.6	—	2.8	0.8	0.9	0.9
17	ガリヴァー旅行記	45.5	63.7	25	6.3	25.9	47.5	33	37
18	奇岩城(ルパン・シリーズ)	2.7	38	13.9	0.9	5.6	0.8	—	0.9
19	きゅうりの王さまやっつけろ	0.9	0.9	0.4	—	—	—	—	—
20	銀のスケート	—	—	0.8	—	—	—	—	—
21	クオレ	—	0.9	2.9	—	0.9	0.4	—	—
22	くまのプーさん	96.4	97.2	7.8	3.6	2.9	58.2	27.7	57.4
23	クリスマス・キャロル	18.8	26.6	4.1	5.4	3.7	2.5	6.3	11.1
24	グリム童話	88.4	89.8	29.1	7.1	3.2	58.6	68.6	72.2
25	クローディアの秘密	—	0.9	0.4	—	0.9	—	—	—
26	ゲド戦記	44.6	49.1	0.4	0.9	3.7	—	0.9	0.9
27	西遊記	92	93.5	17.6	0.9	16.7	18.9	10.7	19.4
28	三銃士	10.7	13.9	3.7	2.7	9.3	3.3	1.8	4.6
29	シャーロック・ホームズの冒険	67	52.8	35.6	8.9	32.4	4.5	3.6	3.7
30	ジャン・ヴァルジャン物語	4.5	15.7	13.5	2.7	6.4	3.3	0.9	—
31	小公子	5.4	17.6	24.2	1.8	13.9	11.5	2.7	4.6
32	小公女	17	24.1	26.6	—	14.8	21.3	8	7.4
33	せむしの小馬	—	0.9	4.9	—	0.9	5.7	—	—
34	大草原の小さな家	17	26	7.4	3.6	13.9	4.1	0.9	—
35	宝島	4.5	22.2	11	0.9	13	11.1	1.8	6.5
36	楽しい川べ	—	—	—	—	—	2	—	—
37	ツバメ号とアマゾン号	—	0.9	0.4	—	0.9	—	—	—
38	トム・ソーヤの冒険	34.8	48.1	22.1	13.4	22.2	16.8	11.6	20.4
39	トムは真夜中の庭で	—	1.9	1.6	—	1.9	—	—	—
40	ドリトル先生アフリカ行き	3.6	24.1	15.2	2.7	14.8	1.2	0.9	2.8
41	ドン・キホーテ	6.3	18.5	6.1	2.7	8.3	4.1	—	3.7
42	長い長いお医者さんの話	—	0.9	1.2	—	0.9	—	—	—
43	ナルニア国物語	44.8	62	1.2	2.7	14.8	—	0.9	0.9
44	新美南吉の童話	84.8	59.3	18.9	20.5	30.6	9.4	35.7	30.6
45	ハイジ	91.1	98.1	9	0.9	4.6	31.1	0.9	12
46	はてしない物語	4.5	9.3	4.5	1.8	6.5	—	—	0.9
47	ピーター・パン	100	98.1	9.4	0.9	1.9	51.2	100	7.4
48	ピノッキオの冒険	85.7	88.9	13.5	0.9	11.1	59	22.3	45.4
49	秘密の花園	5.4	28.7	16	0.9	16.7	2	0.9	0.9
50	ファープルの昆虫記	54.5	55.6	54.9	33	42.6	7	8	9.3
51	ふしぎの国のアリス	90.2	98.1	34.8	1.8	17.6	48.4	17.9	51.9
52	ふたりのロッテ	5.4	13.9	5.3	2.7	6.5	1.6	7.1	—
53	フランダーズの犬	86.6	94.4	11.5	2.7	13.9	27.5	8	24.1
54	フランパース屋敷の人々	—	—	0.8	—	—	0.4	—	—
55	プラテローと僕	—	—	0.4	—	—	—	—	—
56	星の王子様	48.2	71.3	21.3	21.4	46.3	13.1	17.9	26.9
57	星のひとみ	—	—	1.6	—	—	0.4	—	—
58	ホビットの冒険	—	3.7	2.1	—	3.7	—	—	—
59	魔女の宅急便	92	98.1	2.5	0.9	9.3	4.9	—	13
60	宮沢賢治の童話	82.1	77.8	41.4	36.6	59.3	3.7	11.6	17.6
61	水の子	—	—	—	—	—	—	—	—
62	みどりのゆび	8	3.7	1.2	1.8	0.9	—	1.8	2.8
63	ムギと王さま	1.8	—	0.8	—	—	0.4	—	—
64	名探偵カッレくん	0.9	—	0.4	—	—	—	—	—
65	モモ	6.3	33.3	14.3	4.5	28.7	1.2	0.9	2.8
66	森は生きている	3.6	13.9	12.7	1.8	8.3	4.9	0.9	3.7
67	やかまし村の子どもたち	—	—	1.6	—	—	—	—	—
68	床下の小人たち	—	1.9	0.4	—	—	—	—	—
☆69	指輪物語	35.7	52.8	未調査	0.9	1.9	未調査	0.9	3.7
70	リング畑のマーティン・ビビン	—	1.9	0.4	—	—	—	—	—
71	ロビンソン・クルーソー	6.3	20.4	12.3	2.7	10.2	7	0.9	2.8
72	若草物語(四人の姉妹)	17.9	42.6	38.9	4.5	31.5	12.3	7.1	11.1